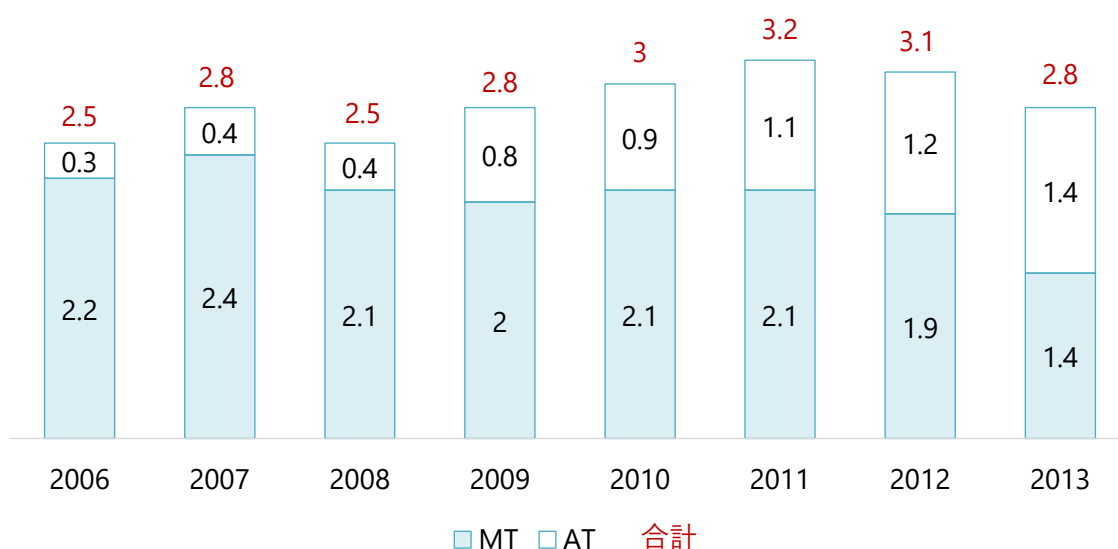


バイク産業、ニーズ多様化の兆し

人口 9,000 万人、所有バイク台数は 3,700 万台、ベトナムはバイク産業の巨大市場だ。人口が大都市に集中し、道幅も狭く、公共交通機関も十分整っていないベトナムにおいて、バイクは手放せないツールである。市場の 2 大プレーヤーはホンダとヤマハであり、2013 年 90%以上のシェアを占めている。各社の売上はホンダが 18.7 億ドル、ヤマハが 7.5 億ドルであった。2013 年、2 社の年間生産可能台数を合計すると、年間 350 万台以上となっている。

年間生産可能台数は国内年間販売台数を上回り、輸出入バランスへ大きく影響を与えている。輸入は 2008 年の 11 万台（1.4 億ドル）から 2013 年 1.9 万台（4,200 万ドル）に減少している一方で、輸出は 2009 年の 4 万台（3,200 万ドル）から 2013 年の 14 万台（1.6 億ドル）と増加し、1 台当たり輸出額は 1,140 ドルであり、付加価値は低いが、輸入国から輸出国へと変容を遂げた形だ。主な輸出先国はフィリピン、インドネシア、タイである。

ベトナムのバイク販売台数（百万台）



一方で国内販売台数は 2006 年 160 万台（14 億ドル）、2011 年 323 万台をピークに 2012 年 310 万台、2013 年 283 万台（28.5 億ドル）と年々減少している。単純計算で 2.5 人に 1 人がバイクを所有しているベトナムでは、市場が飽和している可能性が高い。一方で 1 台当たりの価格は 875 ドルから 1,007 ドルに増加している。MT 車から AT 車への切り替えがその要因の 1 つだ。販売台数に占める AT 車の割合は 2010 年の 30%から年々増加を続け、2013 年には 48%となった。人気の理由は操作が簡単かつ雨の多いベトナムで靴の汚れを気にせず乗れるからだと言われており、平均的に MT 車よりも価格が高いことから、消費者は多少高くても高性能なバイクを求め始めていると考えられる。2014 年 3 月、警察などの限られた層のみに許可されていた A2 ライセンス（175cc 以上のバイクの運転免許）が一般人に開放

された。高排気量のバイクはベトナムにとって高価格であり、バイクの市場規模全体に占める割合は小さいと思われるが、まだシェアの確立されていない未開拓市場が生まれたと言える。

輸入国から輸出国への転換、国内ニーズの変化、その他にも AFTA による関税の撤廃、モータリゼーションの波が控えている。ベトナムのバイク産業は複数の懸案事項を抱えており、各事業者の興亡はこれからの舵取りに懸かっているとと言えるだろう。

